



目どろの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

「目どろからやっていないと、非常時にできるわけがない」
第四団地自主防災組織

第四団地自主防災組織は、平成25年に発足したまだ新しい組織である。自主防災訓練を行うのも、まだ2回目。しかし、訓練の内容は非常に充実したものである。

訓練は、計画的に準備され、避難訓練や消火訓練、救護訓練、炊出訓練などを行う。まるで総合訓練並みの内容である。そのことについて、第四団地自主防災組織の関口会長は「防災訓練は、昨年から始めましたが、まだ半数の世帯しか参加してもらえていないのが現状です。昨年の反省を今年に活かし、今年の反省を来年に活かすなど、少しずつ工夫をしていくことで、ひとりでも多くの人が参加してもらえるように考えて、進めています」と語る。例えば避難訓練では、道路の各所に通行止めを仮定した場所を設定し、各ブロックごとに、いかに早く安全に留意しながら集会所まで避難するという工夫を行っている。



11月2日に行われた防災訓練の様子

関口会長は「訓練は、知っているだけではだめなんです。体験するからこそ、とっさの時の反応ができるようになるのです。そのためにも目どろから訓練に参加し、ひとりでも多くの人が体験できるようにしていかねば、災害を減らすことにはつながらないのです」と語る。「今後、高齢化が進むなかで、もっと若い人が団地のさまざまな活動に参加してくれるように、活動にもっと工夫をしていきたいと思っています」と、関口会長は話してくれた。

毛呂山歴史教室 第248回 毛呂山合併ヒストリー ～巻の1～

毛呂山町の歴史を辿ると、江戸時代には、22の村に分かれ、主に旗本領、大名領、直轄地となっていました。

その後、版籍奉還や廢藩置縣などを経て管轄が変わり、明治9年（1876）、町域全体が埼玉県となりました。そして、明治22年（1889）4月1日に町村制が施行されました。

当時の毛呂山町域は、毛呂本郷連合と川角連合に分かれていました。合併の指導も連合戸長との区域と合わせる必要があり、連合戸長を中心に協議が進められました。そして、毛呂本郷連合は、9か村を合併し、毛呂村と改め、川角連合は、10か村を合併し、川角村と改めました。しかし、川角連合内の岩井村と

前久保村は、江戸時代に毛呂本郷・小田谷村・長瀬村とともに一つの毛呂郷を構成する村であったため、村民の一部から、この5か村で合併をしたいという要望があり、当時の埼玉県知事に、直接、決定を仰ぐ上申書を送りました。結果、5か村の要望を尊重することとなり、最終的に明治の大合併を行うことになりました。

その結果、毛呂村（毛呂本郷、小田谷村、長瀬村、前久保村、岩井村）、瀧野入村（瀧野入村、阿諏訪村、大谷木村、宿谷村、権現堂村、葛貫村）、川角村（川角村、下河原村、市場村、西大久保村、大類村、苦林村、西戸村、箕和田村）の3村が誕生しました。

合併後の村名を決めるにあたり、毛呂村は、地域の歴史に関わりの深い毛呂氏の名を残したいという地元の人びとの意向が取り入れられ、瀧野入村と川角村は、それぞれ最も大きい地域の村名を踏襲したそうです。

なお、瀧野入村は、明治24年（1891）に山根村と改称されました。